

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,046	t-CO <sub>2</sub>
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素排 換出 算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO <sub>2</sub>
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	④メタン		t-CO <sub>2</sub>
	⑤一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑨三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		3,046

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度	t-CO <sub>2</sub>	令和 6 年度	t-CO <sub>2</sub>	令和 4 年度	t-CO <sub>2</sub>	令和 5 年度	t-CO <sub>2</sub>	令和 6 年度	t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>
削減率（対基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度	t-CO <sub>2</sub> /千トン	令和 6 年度	t-CO <sub>2</sub> /千トン	令和 4 年度	t-CO <sub>2</sub> /千トン	令和 5 年度	t-CO <sub>2</sub> /千トン	令和 6 年度	t-CO <sub>2</sub> /千トン
原単位あたりの排出量	86.26	t-CO <sub>2</sub> /千トン	83.67	t-CO <sub>2</sub> /千トン	88.46	t-CO <sub>2</sub> /千トン	85.65	t-CO <sub>2</sub> /千トン	92.54	t-CO <sub>2</sub> /千トン
削減率（対基準年度）			3.0	%	▲ 2.6	%	0.7	%	▲ 7.3	%
原単位あたりのみなし排出量						t-CO <sub>2</sub> /千トン		t-CO <sub>2</sub> /千トン	92.54	t-CO <sub>2</sub> /千トン
削減率（対基準年度）						%		%	▲ 7.3	%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

本年まで基準年度よりCO<sub>2</sub>は約19.4%削減。この4年間、原油換算エネルギー消費量は約19.2%減少しましたが、生産量も24.9%減少しております。弊社で一番燃料を消費する高温炉は現状、製品不良が出ない最低限の温度で運転中で、断熱性を強化してありますが、その維持燃料も下限です。従って、原単位改善の為に現状、生産量増加しか挽回の手段がなく、販売先を増やす事での改善努力をするしかない状況です。補足：令和6年度の排出量は92.54t-CO<sub>2</sub>/千トンとなっておりますが、実際は81.15t-CO<sub>2</sub>/千トンです。これは実際は令和4年9月よりCO<sub>2</sub>排出係数の少ない中部電力より電気の供給を受けているのですが、基準年度ルールにより同係数の大きいダイヤモンドパワーより供給されていると計算しているためです。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の実践	①使用していない機器の元電源を切る。 ②廃熱ボイラーで回収した蒸気の有効利用。 ③冷却水 水量適量化。		実施継続中
省エネルギー・省資源の実践	各生産設備の運転基準・保守基準の最適化 保守点検記録の明確化。		実施継続中
省エネルギー・省資源の実践	機器の購入・更新に際して省エネルギー性能を考慮のうえ選定する。		実施継続中。
省エネルギー・省資源の実践	照明機器の省エネ化「LED化」促進		常時使用灯の完全LED化を達成済。残りの利用頻度の少ない電灯は随時LED化を行う。
省エネルギー・省資源の実践	夜間の余剰蒸気の利用(未使用エネルギーの有効利用) 原料石炭の乾燥を夜間に行えるようにプラントの改良を行う。 (付帯装置の追加、ライン変更)		夜間乾燥プラントは完成。本格運転開始。
省エネルギー・省資源の実践	B加熱炉の稼働効率増加による重油使用原単位の低減		取組み中止中
自動車等輸送に関する対策	可能な限り公共交通機関を利用し自動車の利用を控える 急発進急加速を控えエコドライブを実践する 不要のものを積載したまま走行しない		実施継続中

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）
H22年度	事前乾燥（振動流動乾燥装置）	Aキルン用原料2トン/h
H22年度	事前乾燥（流動乾燥装置）	熱間成形用原料3トン/h
H24年度	攪拌式振動流動乾燥装置	SC No.2 石炭の乾燥3トン/h R2年より改造。効率アップ
R6年度	太陽光発電設備	50kw設置済。2030年までに合計250kw設置の予定。

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力	太陽光発電	0.0 t-CO <sub>2</sub>
熱		t-CO <sub>2</sub>

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>
		t-CO <sub>2</sub>

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

0.0	t-CO <sub>2</sub>
-----	-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

昨年完成した夜間乾燥プラントは本格運転中した。年間を通しての安定運転を行い燃料消費量の削減して効果は出ている。ただし生産量減による発生蒸気の不足等もあり、昼間の重油運転日が増加するなど効果は一部が限定されている。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

フォークリフトなどの輸送機の点検整備の実施。